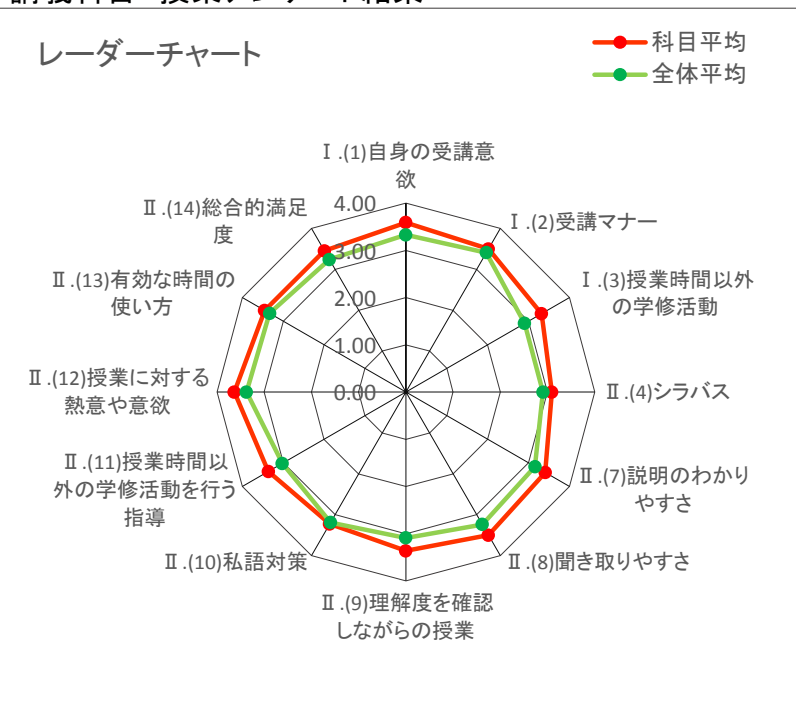
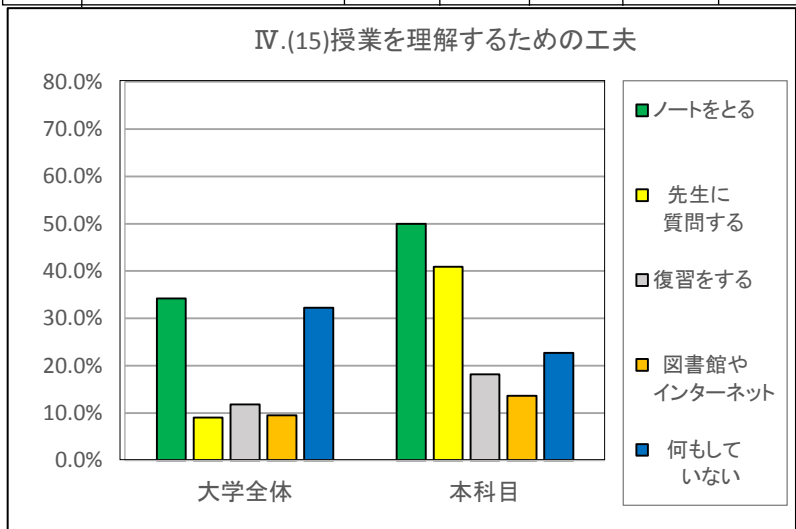


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	50.0%	40.9%	18.2%	13.6%	22.7%



アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2015年度 後期
時間割番号	33106
科目名	漢文学 I
教員名	

①授業計画の達成度について
 司馬光の『資治通鑑』唐紀のうち、玄宗と楊貴妃にまつわる史実をピックアップして読解し、読解を通して文法力、語彙力を身に付けさせた。当初予定していた教材の分量が多く、難易度も高かったが、途中のあらずじを日本語で説明したりして一部省略した。その結果、楊貴妃の死の場面まで読み通すことができ、学生たちも達成感を感じてくれたようだった。さらに、司馬光の史実に対するコメントも時間をかけることができたため、中国の歴史書の特徴を深く理解させることに成功したと思われる。難易度が高いというのは教材の性質上やむをなかったと思うが、難易度が高い教材を、学生のニーズに合わせていることができたと確信している。

②授業の進め方について
 声や言葉、説明は明瞭で、学生の理解を確かめながら、授業を進めている。授業環境は守られており、学生の授業満足度は高いといえる。以下、簡単に、漢文学Iならではの特徴的な点を述べる。白文、書き下し文、現代語訳を完備したプリントを配布した上で、それを要領よくノートに書き込むとともに、授業で板書される返り点、送り仮名や、文法、語彙説明を書きとっていくというオーソドックスな授業の進め方を取った。学生たちが、授業を理解するための工夫として、「ノートをとる」を挙げたのは、授業の進め方をよく理解してのことである。ノートをとることを授業の根幹に置く授業方法は、高校の漢文教育において一般的伝統的な方法である。学生諸君が教育実習に行ったり、実際に教員となって指導者となった時、伝統的方法を知っていることは有利に働くと考えて、この進め方を取っていることを追記しておきたい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について
 当初予定していた教材量が多かったという点は、学生たちの学力を予測しておらず、仕方がなかったかと思う。ただ、予定通りに無理やり進めるのではなく、学生たちと対話しながら、学生たちが消化できる適正な量に修正できたことは評価できよう。学生たちは学習意欲が高く、「口語訳もプリントに書いておいてほしい」と提案してくれた。また、ノート提出に対して提出期限を設けていたが、間に合わなくても諦めずに「提出してもいいですか」と積極的に声をかけてくれた。今学期は、教材内容が多く、難しかったため一斉授業に傾いてしまったが、復習では、グループ学習を取り入れ、各グループが教え合い学び合いをさせることができた。ストーリーを友達に説明している学生の姿を見て、漢文理解の深度、興味の高まりを感じた。今後も、学生との対話を重んじ、一斉授業だけでなく、グループ学習も適宜取り入れた授業展開をしていきたい。

	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.59	3.33
	I.(2)	3.50	3.41
	I.(3)	3.32	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.09	2.90
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.41	3.16
	II.(8)	3.50	3.24
	II.(9)	3.36	3.09
	II.(10)	3.23	3.19
	II.(11)	3.36	3.03
	II.(12)	3.64	3.38
	II.(13)	3.45	3.33
	満足度	II.(14)	3.45

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.47	3.21
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.38	3.17
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.45	3.24
III.(14)		